



大溝城跡



6月定例県議会 一般質問にたちました

安曇川の治水と 北川ダムについて

Q 昭和28年9月25日の台風13号による大水害で、安曇川右岸のニツ矢地区の堤防決壊はなぜ起こったのか、どのように分析されているのか。

A 知事 原因はそこあったと考えます。

一つは今の安曇川大橋の前の古い橋のあとがあり、堤防が低く切れ込み、そこから水があふれ、20年もその低い部分が放置されていた。

二つ目は、戦争で男手がとられ河川の補修ができず、川の流れを整える作業が何年も滞ってしまい、流せる水量が減ってしまいました。大きな被害が出た原因としては、半鐘が戦争で供出され、危険を知らせる手段がなかったためと考えます。

Q 昭和28年の水害後、県により本格的な安曇川の治水対策が進められてきたが、その経過について。

A 知事 昭和32年から平成10年まで河口部の南北流の分流工事を行い、上流約24km区間の引堤工事により、下流部の天井川区間では当時比べ約2倍の流量が流せるようになりました。

Q ダム調査開始から約40年、北川ダム建設事業にどのように取り組んできたか。

A 知事 昭和48年度に調査開始、昭和61年度から実施計画調査、平成元年度から建設事業に着手しております。

平成11年度から第1ダム工事用道路、平成13年度から環境影響緩和のためダム形式を貯水型ダムから河床部穴あきダムに変更しており、平成19年に希少野生生物のクマタカの生息が確認されたため工事が一旦中断、現在は、地域の生活道路機能の確保や防災上必要な工事を行っています。

Q ダム検証を踏まえた今後の安曇川の治水対策の取り組み方針について。

A 知事 整備目標は、概ね1/30の安全度、流量を毎秒2,000トン以下とする。

「第2回検討の場」で当面の整備目標として、次の3つの治水対策案を工事費も示し、ご意見を伺いました。

1 「第一ダム+第二ダム+河道改修」

2 「第一ダム+河道改修」

3 「河道改修単独」

Q 早くして欲しいと言っている住民の皆さんの切実な思いに対し、治水安全度を上げることが県のすべきことだと思いが、改めて知事の決意を伺う。

A 知事 しっかり地元の関係住民の方々の意見を伺い、実現性のある早く確実に命を守る政策を選定し、実行していきたいと思っています。



琵琶湖治水の先覚者 藤本太郎兵衛親子二代の偉業

広大な琵琶湖は瀬田川しか排水路がなくその周辺の村々は度重なる水害に悩まされてきました。江戸時代後期、深溝村の庄屋であった藤本太郎兵衛親子二代は、多くの村々のために私財を投げ打って命をかけ、50年の長い歳月を要した、「天保の御救大渡おすくいおさらへ」と呼ばれる大事業を成し遂げました。この時の竣工届によると、大工27人、人夫延べ約31万人、工事費等が7,654両(約2億5千万円)とされています。

滋賀県は比較的水害が少なく、私たちが安心して住めるのは太郎兵衛親子二代のお陰です。この偉業を後世にも伝えていきたいものです。



高島市新旭町深溝の琵琶湖沿いの夕暮原浜公園に立つ藤本太郎兵衛の銅像

滋賀県内研修調査

東日本大震災を教訓に、原発立地の福井県に隣接している高島市および長浜市の防災対策を調査、さらに、県内のモニタリングポストなどを視察しました。

- モニタリングポスト(県設置)計4ヶ所
- 調査先 計8ヶ所

5/27 高島市役所
高島市の防災対策を調査。市民の被害を食い止めるため備蓄品やヨウ素剤についての課題を伺う。

5/27 モニタリングポスト及びモニタリング車
県単独で設置したモニタリングポストのうち、マキンスキー場と西浅井山門水源の森を調査。現在停止中。

5/27 長浜市役所
長浜市の防災対策を調査。市民への迅速な情報伝達体制及び県と市の連携など要望を伺う。

4/28 衛生科学センター
放射線に関する基礎知識および本県(全県)の検査機能を調査。県内で唯一、毎日環境放射線を文部科学省に提示している。

6/20 工業技術総合センター
福島原発事故により、工業製品の海外輸出に伴う風評被害対策にいち早く放射線測定装置を導入。

6/20 大戸川水力発電所
100年目を迎えた大戸川発電所を調査。有効落差74mの鉄管に水を流し、アメリカ製の水車2台で発電。最大出力1600kW=発電規模500世帯

6/20 大戸川水力発電所取水堰
大戸川発電所から4km上流の取水堰。自然の理にかなった仕組みと工法で今も現役。

福島県研修調査

5/5-6

東日本大震災により、地震・津波・原発・風評の被害に襲われた福島県を訪問しました。

調査目的は、被災地の実状及び滋賀県派遣職員の見聞状況把握し、今後の滋賀県防災計画の見直しに活かすためです。今回の調査で、確実な情報伝達手段、避難時に即座に対応できる防災拠点や避難所、防災知識および現場の状況判断が出来る人材育成、日頃からの放射能汚染のデータ分析など、今後の大きな教訓として得ることができました。現在、ビデオで撮影した映像を編集し県政報告会などで活用しています。前もって控室にご連絡いただきましたら、ご覧いただけます。

会派活動報告

- 5/6 福島県自治会館**
滋賀県職員の役割
- 5/5 真島橋**
津波で流された巨木
- 5/6 あづま総合運動公園**
ピーク時2500名、5/6時点で650名の避難者
- 5/5 南相馬市役所**
桜井勝延市長と面談
- 5/5 老人福祉施設「ヨッシーランド」**
津波により濁水や汚泥が天井近くまで一気に押し寄せた
- 5/6 郡山養護学校**
日頃の教育活動が避難者の食事や生活をしっかり支えた